

行事報告

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業—CIS 活動報告(ベトナム)

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業運営委員会 委員 菅哲男
接合科学研究所 客員教授

2017 年度のベトナム CIS(カップリングインターンシップ)を、9月10日-23日の期間にベトナム(ハノイ、ハイフォン)で開催しました。大阪大学の外国語学部2名と工学研究科2名、ハノイ工科大学(HUST)の情報工学部2名と工学部2名の計8名の学生が参加しました。

現地で2日間の事前研修(HUST、ハノイ)を行い、学生主導により、日本企業の経営理念やコミュニケーションの研修、溶接基礎知識の教育(VTR)、CIS 実習テーマの事前検討などを行いました(指導:言語文化研究科の清水教授、佐藤特任助教)。13日からの休日を除く5日間は、ハイフォンにある IIA [IHI INFRASTRUCTURE ASIA](橋梁会社、IHI の子会社)で企業実習を実施しました。実習としては、会社説明(組織、業務内容)、生産工程の説明、安全と品質の講習、実習(ガス切断と溶接)などを受けると共に、橋梁の外注会社(ナムロン社)の工場見学を行いました。また、IHI グループが建設した世界最大級の斜張橋のニャットン橋(ハノイ)も見学しました。

実習テーマ「日本人とベトナム人のコミュニケーションの課題と対策」について、企業の経営者やスタッフとのインタビューなども踏まえて、学生は連日一生懸命に取り組みました。

最終日の22日にはHUST(ハノイ)で、学生はCISの実習テーマの検討結果について発表しました。最終報告会には、IIAの佐々木社長、福岡工場長、HUSTのHanh 接合科学部門長、Duy 講師、阪大の清水教授、佐藤特任助教、菅客員教授ら計17名の参加があり、活発な質疑応答が行われました。佐々木社長からは、「今後の参考になる有用な提案が出ている」とのコメントがありました。

学生は、「日系現地企業のものづくり現場」を体験すると共に、異文化・多言語環境下でのコミュニケーション力や異文化理解力の習得が出来ており、大変有意義な活動でした。ハノイは発展途上国に特有の活気に満ち溢れていました。ハノイの街に元気を貰って、阪大関係者は9月23日に無事帰国しました。

